

1. 科目名 (単位数)	児童学研究基礎論 (2単位)	3. 科目番号	SJMP5101				
2. 授業担当教員	岡野 雅子、上田 征三、関口 はつ江						
4. 授業形態	オムニバス形式による	5. 開講学期	春期				
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態 (通信教育)	R				
7. 講義概要	<p>「全体としての子ども」(a child as a whole)の理念のもとで、多分に学際的な性格をもつ児童学は、子どもに関する総合的な学問として発展してきた。本科目では、保育、教育、心理、保健・医療、福祉の諸領域を包括する複合科学としての児童学について理解し、知識を深める。児童学専攻科目を履修し児童学研究に取り組むに当たり、まず、児童学についておよび研究方法の基礎について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童学 (child studies) について理解する。</li> <li>・児童学は子どもの視点で考える学問であることを理解する。</li> <li>・児童学は学際的であり、既存の領域に縛られずに多様な知を取り入れることを理解する。</li> <li>・児童学にはいろいろなアプローチがあり、研究方法はいろいろあることを理解する。</li> <li>・研究論文の構成および進め方について理解する。</li> </ul>						
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 児童学について説明できるようになる。</li> <li>2) 児童学領域の様々な研究方法について説明できるようになる。</li> <li>3) 自己課題に必要な資料検索の方法について習得する。</li> <li>4) 研究論文として構成すべき事項について説明できるようになる。</li> <li>5) 自己課題について児童学研究としての計画を立てることができるようになる。</li> <li>6) 研究論文の進め方について習得する。</li> </ol>						
9. レポート課題	<p>レポート課題：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 児童学とは何かについて述べなさい。(テーマ4終了時に提出する。)</li> <li>2) 科学論文としての児童学研究論文について、自己の課題(仮のもので可)を設定してその論文の構成を書いて説明しなさい。(テーマ7終了時に提出する。)</li> <li>3) 児童学研究における量的研究と質的研究それぞれの目的、有効性と限界について述べなさい(テーマ12の終了時点で提出する)</li> <li>4) 子どもに関する保健・医療上の課題を1つ選び、その課題の研究方法について述べなさい。(テーマ15終了時点で提出する。)</li> </ol> <p>[各レポートはA4判、横書き、明朝体10.5ポイント、2ページ(1ページあたり40字×39行)にまとめて提出すること。]</p>						
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 花井等・若松篤『論文の書き方マニュアル新版』有斐閣、2014。</li> </ol>						
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 学際科学である児童学について理解し説明すること、および、研究に取り組むにあたり必要な手順について習得することが求められている。 積極的な受講態度、レポート課題等で総合的に評価する。</p> <p>○評定の方法 (通学過程)</p> <table border="0"> <tr> <td>レポート</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>受講態度、発表</td> <td>30%</td> </tr> </table>			レポート	70%	受講態度、発表	30%
レポート	70%						
受講態度、発表	30%						
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期から学童期の子どもの発達には目を見張るものがあります。その内実について、折に触れて実際に子どもを観察して体験して下さい。</li> <li>・日常生活場面で子どもの行動特徴(周囲への関心の表し方等)を捉え、子どもの立場から環境などについて考えてみて下さい。</li> <li>・子どもおよび子どもを取り巻く人・モノ・環境などをテーマとしたさまざまな研究論文を読むように心がけて、視野を広げて下さい。</li> </ul>						
13. オフィスアワー	授業中に周知する。						
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】							
1. テーマ	(岡野 雅子) 児童学は子どもに関する総合的な学問である						
	<p>【学習の目標】 児童学とは何かについて理解する。</p> <p>【学習の内容】 子どもに関する総合的な学問であり学際科学であることから、既存の領域に縛られずに広く多様な知を取り入れることを学習する。</p> <p>【キーワード】 児童学 総合的学問 学際科学 多様な知</p> <p>【学習の課題】 児童学とは何かについて説明せよ。</p> <p>【参考文献】 浜田寿美男『子ども学序説』岩波書店、2009。 津守眞『子ども学のはじまり』フレーベル館、1979。 津守眞『子どもの世界をどうみるか』日本放送出版協会、1987。 西隆太朗『子どもと出会う保育学—思想と実践の融合をめざして—』ミネルヴェア書房、2018。</p> <p>【学習する上での留意点】 津守眞『子ども学のはじまり』『子どもの世界をどうみるか』が入手困難な場合には、プリントを配布する。</p>						
2. テーマ	(岡野 雅子) 児童学の意義						

	<p>【学習の目標】「全体としての子ども」の視点の重要性について理解する。  【学習の内容】「全体としての子ども」の視点の必要性および重要性について学習する。  【キーワード】「全体としての子ども」  【学習の課題】児童学の意義について述べよ。  【参考文献】浜田寿美男『子ども学序説』岩波書店、2009。  津守眞『子ども学のはじまり』フレーベル館、1979。  津守眞『子どもの世界をどうみるか』日本放送出版協会、1987。  西隆太郎『子どもと出会う保育学—思想と実践の融合をめざして—』ミネルヴァ書房、2018。</p>
3 . テーマ	(岡野 雅子) 児童学の様々な研究方法
	<p>【学習の目標】学際科学である児童学の研究方法には様々なものがあることを理解する。  【学習の内容】実証的研究の方法は、量的方法と質的方法があることを学習する。  【キーワード】量的研究 質的研究 統計分析 質問紙調査 観察 面接 データ  【学習の課題】量的研究、質的研究の具体的方法について、それぞれの特徴について述べよ。  【参考文献】大野木裕明・中沢潤『心理学マニュアル 研究法レッスン』北大路書房、2002。  【学習する上での留意点】科学研究としての客観性や再現性について理解して、今後レポートや研究論文を書く際の文章には気を付けるようにする。</p>
4 . テーマ	(岡野 雅子) 研究課題の決め方
	<p>【学習の目標】自らの研究課題をどのように決めるかについて理解する。  【学習の内容】(1) 自分の興味・関心について自らに問う。  (2) 何を知りたいかを明確にする。  (3) 研究したい課題(研究目的)を質問(research question)の形にしてみる。  (4) 具体的な研究課題へとさらに絞っていく。  【キーワード】自らの興味・関心 何を知りたいか 研究目的  【学習の課題】何を知りたいのか、何を明らかにしたいのか、箇条書きにして挙げてみる。  【参考文献】花井等・若松篤『論文の書き方マニュアル新版』有斐閣、2014。  大野木裕明・中沢潤『心理学マニュアル 研究法レッスン』北大路書房、2002。  【学習する上での留意点】自分の興味・関心について、自分自身にしっかりと問う。</p>
5 . テーマ	(岡野 雅子) 資料検索の方法
	<p>【学習の目標】研究課題についての情報収集の方法を理解する。  【学習の内容】研究課題およびその周辺のことについて、既にどのような知見があるかを知るための文献検索の方法を学習する。  【キーワード】文献検索 先行研究 専門誌  【学習の課題】CiNii (NII 学術情報ナビゲータ) による検索をしてみる。  【参考文献】花井等・若松篤『論文の書き方マニュアル新版』有斐閣、2014。  市古みどり編著『資料検索入門—レポート・論文を書くために—』慶応義塾大学出版会、2014。  【学習する上での留意点】大学の図書館を有効に活用するとよい。</p>
6 . テーマ	(岡野 雅子) 研究論文の構成
	<p>【学習の目標】科学論文としての決まりごとを習得する。  【学習の内容】(1) 科学論文は「目的」「方法」「結果」「考察」から成っている(若干の発展形の場合もある)。  (2) 客観性、再現性があること、研究倫理に反していないこと。  【キーワード】論文構成 客観性 研究倫理  【学習の課題】自分の研究課題について論文の骨組み(構成要素)を書いてみる。  【参考文献】花井等・若松篤『論文の書き方マニュアル新版』有斐閣、2014。  日本保育学会倫理綱領ガイドブック編集委員会『保育学研究倫理ガイドブック』フレーベル館、2010。  【学習する上での留意点】複数の先行研究を見て、研究課題および研究方法による論文の構成や流れ方を比べてみる。</p>
7 . テーマ	(岡野 雅子) 課題研究の進め方
	<p>【学習の目標】研究課題について論文として発展させるための進め方について理解する。  【学習の内容】論文作成のための手順について学習する。  【キーワード】課題研究 仮説 先行研究 研究方法 データの整理・集計 データの分析 考察  【学習の課題】研究スケジュールを作成する。  【参考文献】花井等・若松篤『論文の書き方マニュアル新版』有斐閣、2014。  戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』日本放送出版協会、2012。</p>
8 . テーマ	(関口 はつ江) 児童・保育研究における目的と方法
	<p>【学習の目標】児童学、保育学の立場からの研究の在り方を踏まえ、研究目的および研究仮説、研究段階に対応する資料収集に適する方法を考える。  【学習の内容】論文作成の目的、研究の意図、研究仮説に応じた研究方法、研究手法の選択の仕方を考える  【キーワード】子ども観、保育・教育観、量的研究の長所と限界、質的研究の目的と限界  【学習の課題】研究の背後にある課題意識、発達観、保育観などを意識しながら研究方法を選択する  【参考文献】佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社、2013。  柴山真琴『こどもエスノグラフィ—入門』新曜社、2006。  【学習する上での留意点】それぞれの研究には明らかにすることができる内容は限られていることを理解する。</p>
9 . テーマ	(関口 はつ江) 研究方法1 (観察による研究)
	<p>【学習の目標】観察することによる研究の多様性と課題を理解する。子どもや保育への眼差し、観る側の要因の重要性(対象の選択、場の設定、対象との関係性など)について理解する。</p>

	<p>【学習の内容】 観察による研究の事例から、資料収集の方法と配慮点を理解する</p> <p>【キーワード】 客観的観察 参与観察 観察結果のデータ化 観察結果の考察</p> <p>【学習の課題】 観察事実を記録、整理する方法、その内容の読み取りについて学習する</p> <p>【参考文献】 鯨岡俊『関係発達論の構築』ミネルヴァ書房、1999。          ジーン・レイヴ、エティエンヌ・ウエンガー『状況に埋め込まれた学習』産業図書、1998。          佐藤郁哉『フィールドワークの技法 問いをそだてる仮説をきたえる』新曜社、2002。          最近の研究論文を指定する。</p> <p>【学習する上での留意点】 保育研究においては、観察の視点、研究者と対象者との関係性の観察結果への影響、あるいはその利点を考慮することが重要である。</p>
10. テーマ	(関口 はつ江) 研究方法2 (質問紙、面接による研究)
	<p>【学習の目標】 質問紙調査、面接調査による研究の方法の概要と効用と限界を理解する。</p> <p>【学習の内容】 質問紙の目的、質問項目と分析方法との関係、面接方法、結果の整理、データ化の概要を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 統計的検定 記述の質的分析 面接法</p> <p>【学習の課題】 予備調査として、特定の目的に即した質問項目、面接方法(質問内容)の選択、作成を試みる。</p> <p>【参考文献】 斎藤清二・山田富秋・本山方子『インタビューという実践』新曜社、2014。          L リチャーズ(大谷順子・大杉卓三訳)『質的データの取り扱い』北大路書房、2009。          最近の研究論文を指定する。</p> <p>【学習する上での留意点】 質問項目の多様な作成法を理解する。必要とする情報と質問方法の関係を十分理解する。</p>
11. テーマ	(関口 はつ江) 研究方法3 (事例、実践記録等による研究)
	<p>【学習の目標】 実践過程研究の意義、研究資料としての実践記録や事例記録の要件を理解する。</p> <p>【学習の内容】 実践記録から保育状況の読み取り、子どもの内面、保育行為の意味等について考察、解釈を通して、記録(音声、映像、メモ)の作成、整理や有効性を理解する。</p> <p>【キーワード】 エピソード記録 フィールドノート 省察 カンファレンス</p> <p>【学習の課題】 保育場面における子どもの行動、相互作用等の記録について多様な視点から解釈する。</p> <p>【参考文献】 津守真『保育の体験と思索』大日本図書、1980。          鯨岡俊・鯨岡和子『保育のためのエピソード記録入門』ミネルヴァ書房、2017。          榎・大豆生田・岩田・河邊『保育記録と振り返り』子ども学7号 萌文書林、2019。</p> <p>【学習する上での留意点】 発達・保育理論を踏まえながら、大人の立場から離れ、子どもの側からの柔軟な解釈を試みる。</p>
12. テーマ	(関口 はつ江) 実践現場における研究の意義
	<p>【学習の目標】 研究と実践との関係性を理解し、実践の追求、研究成果の現場への適用に関する考え方を深める。</p> <p>【学習の内容】 実践的課題解決を目的とした研究、実践の対象化を目指した研究など、実践者においてとらえられる事象と研究的視点でとらえられる事象、構造との違いと関連を考える。</p> <p>【キーワード】 当事者性 子どもと大人の関係 間主観的把握 事象の分析</p> <p>【学習の課題】 実践的具体的事実を整理分析、考察することを通して本質や一般性に近づく可能性を理解する。</p> <p>【参考文献】 ドナルド・ショーン(佐藤学訳)『専門家の知恵』ゆるみ出版、2001。          中村雄一郎『臨床の知とは何か』岩波新書、1992。          大場幸夫『こどもの傍らにあることの意味』萌文書林、2007。</p> <p>【学習する上での留意点】 科学的、理論的構成概念と現象的体験の違いに注意する。</p>
13. テーマ	(上田 征三) 保育における「気になる子」の研究手法
	<p>【学習の目標】 発達の課題か、障害や病気か「何が気になるか」を明確に解説できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 現場の保育者はどのような視点で「気になる」としているのか、ある調査研究から明らかにする。</p> <p>【キーワード】 保育者 気になる子 発達の課題 量的調査 質的調査</p> <p>【学習の課題】 乳幼児期の発達とその課題などから「何が気になるか」について整理し論述せよ。</p> <p>【参考文献】 上田征三他「保育所における『気になる子ども』の実態調査と支援の課題—福山市内保育所の実態調査から—」経営福祉学研究 第9号、2004。</p> <p>【学習する上での留意点】 「気になる子」に関する先行研究をまとめることが重要である。</p>
14. テーマ	(上田 征三) 子どもの理解を踏まえた福祉(社会的養護)
	<p>【学習の目標】 子ども環境の変化と児童虐待などの課題を理解する。</p> <p>【学習の内容】 社会の変化と子ども虐待の現状を理解し、その解決策について事例から考察する。</p> <p>【キーワード】 少子高齢化 児童の権利に関する条約 児童虐待 児童福祉法 社会的養護</p> <p>【学習の課題】 児童虐待の現状についてデータを整理分析しその防止について考察する。</p> <p>【参考文献】 上田征三『実践研究や事例から学ぶ社会的養護Ⅱ』大学図書出版、2018。</p> <p>【学習する上での留意点】 最新のデータを入力すると同時に多くの事例研究から虐待防止の視点を学ぶ。</p>
15. テーマ	(上田 征三) 行動障害の激しい事例研究
	<p>【学習の目標】 行動障害がある子への家族を含めた支援について支援計画を立てる。</p> <p>【学習の内容】 自閉症スペクトラム障害における行動障害の背景と家族を含めた支援のあり方を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 ASD 家庭内暴力 共依存 児童発達支援計画</p> <p>【学習の課題】 子どもの側にたったアセスメントとその重要性について理解する。</p> <p>【参考文献】 上田征三『実践研究や事例から学ぶ社会的養護Ⅱ』大学図書出版、2018。</p> <p>【学習する上での留意点】 本人の行動障害は障害だけでなく家族を中心とした環境を理解することも重要である。</p>